

第9回京都府流域下水道事業経営審議会(開催結果)

- 1 日 時 令和8年9月8日(火) 午後3時～4時30分
- 2 場 所 京都ブライトンホテル「麗華の間」
(ZoomによるWeb会議併用)
- 3 出席者 委 員 田中会長、西垣副会長、岩崎委員、上田委員、川池委員、
城崎委員、佐藤(陽)委員、杉浦委員、田野委員、藤木委員、
森委員、安田委員、吉川委員
(川田委員、佐藤(裕)委員、本部委員欠席)
- 京都府 本田建設交通部長、西岡建設交通部技監、石塚公営企業
管理監、高橋流域下水道事務所長、荒木公営企業経営課長、
長谷川下水道政策課長、橘高公営企業経営課参事、
谷山下水道政策課参事 他

4 結果概要

○ 報告事項

- (1) 令和7年度の決算及び取組の状況について
- (2) 「京都府流域下水道事業経営戦略」の取組状況について
- (3) 下水道管理のあり方検討部会の審議結果について

○ その他

農業渇水対策としての下水処理水の活用について

5 主な質疑

(2) 「京都府流域下水道事業経営戦略」の取組状況について

- ・ 京都府流域下水道への接続を希望する意向を隣接する他県から伺っているため、流入量の増加や経営基盤の強化につながる京都府内にとどまらない広域化の取組を積極的に進めていただきたい。
- ・ 八潮市の道路陥没事故などを受けて、流域市町の住民は不安に思われていることと思うが、京都府において全国特別重点調査はどのような結果であったのか。

(府の回答)

管径2メートル以上かつ設置から30年以上の管渠14kmを対象に、京都府においても調査を実施し、原則1年以内の速やかな対策を必要とする緊急度Ⅰに該当する管渠は確認されなかった。応急措置を実施したうえで5年以内の対策を必要とする緊急度Ⅱに該当する管渠は約900m確認されたため、工事に向けた設計を行っているところ。

- ・ 本年8月13日に発生した千葉県での豪雨のような一時的な大雨に対して、京都府流域下水道事業の取組ではどのような効果が期待できるのか。

(府の回答)

京都府流域下水道では、桂川右岸流域において雨水対策事業として「いろは呑龍トンネル」の整備事業を行っている。

同トンネルは1時間あたり61.1ミリの降雨に対応できる規模で整備されており、浸水被害軽減が期待できる。

- ・ 流域下水道の維持管理費の増加は市町の負担増につながり、下水道使用料の値上げにも影響することから、市町が下水道使用料の引上げについて住民の理解を得ることは容易ではないため、流域下水道の維持管理費が増えていることについて、京都府からも住民に向けて説明・発信することを検討していただきたい。
- ・ 資料2の8ページに建設費に係る建設負担金の見直しを桂川右岸流域で導入することが記載されているが、昨年度に桂川右岸流域では、協議により資本費の市町全額負担とすることが決定し、各市町の負担増にも応じたため、その点も資料に記載いただきたい。

(府の回答)

公表用の資料では、その記載を追加したものに修正する。

(3) 下水道管理のあり方検討部会の審議結果について

- ・ 府のWPPPの導入は、持続的経営に向けて、ヒト・モノ・カネの課題解決のために意義があるものであり、府だけでなく関連市町も含めた広域的な検討が進められていることは評価できる。
- ・ 民間とのリスク分担等を明確にするとともに、行政が関与・把握できる体制の構築など、検討を進めていただきたい。
- ・ インフレや国際情勢等の見通しが難しい状況であっても、施設更新など災害対応のために必要な投資は今後も着実に進めていかなければならない。
- ・ 自治体の人材不足等も踏まえ、広域化・共同化や運営形態（管理形態）の検討が重要になってくるため、市町の公共下水道との連携も検討しながら事業を進めていただきたい。
- ・ 運営形態の見直しによるメリットを分かりやすく示しながら、市町関係者や利用者である住民の理解を得ていくことが重要であるので、そのための努力を進められたい。

(その他) 農業渇水対策としての下水処理水の活用について

- ・ 北部地域での農業渇水対策について、流域外市町から下水処理水の利用ニーズがあった事例は全国的にも珍しい。農業分野との連携を進め、農業事業者が必要な際に処理水を利用できるスタンドの設置などの取組も有効ではないか。

- ・ 令和８年度には前年度より多くの処理水を活用させていただき、農業事業者の方々からの感謝の声も寄せられている。この場を借りて感謝を申し上げたい。

今後、渇水が続くことも懸念されるため、抜本的な対策を市で考えていく所存ではあるが、できる範囲でお力添えを賜りたい。

○その他意見・要望

- ・ 雨水対策事業について、線状降水帯の発生等による想定外の大雨に備えるため、降雨範囲や降雨量ごとにいろは吞龍トンネルの浸水軽減効果についてシミュレーションなどで示していただきたい。